

こどもの予防接種一覧・スケジュール表

※予防接種法の改正等により、一部変更が生じる場合があります。ご了承のほどお願いいたします。

予防接種名	0歳	1カ月	2カ月	3カ月	4カ月	5カ月	6カ月	7カ月	8カ月	9カ月	10カ月	11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳
定期	B型肝炎 不活化ワクチン 生後2カ月～9カ月までの間に3回接種 1回目から2回目は27日以上、1回目から3回目は139日以上の間隔をおいて接種																								
	予防接種法で定められた定期予防接種の対象年齢を□で示しましたが、病気にかかりやすい時期を考慮して■の期間での接種をおすすめています。																								
	ロタウイルス ロタリックス ロタテック 経口生ワクチン ロタリックス（1価）の場合 出生6週から24週までの間に、27日以上の間隔をあけて2回接種 ロタテック（5価）の場合 出生6週から32週までの間に、27日以上の間隔をあけて3回接種																								
	ロタウイルスワクチンは、初回接種を生後14週6日までに受けてください																								
	ヒブ 不活化ワクチン 生後2カ月～5歳に至るまで（5歳の誕生日前日まで） 【初回接種】生後2カ月～7か月未満までに開始。生後12カ月までに27日以上（標準：27日～56日まで）の間隔をおいて3回 【追加接種】初回終了後7カ月（標準：7カ月～13カ月まで）の間隔をおいて1回																								
	小児用肺炎球菌 不活化ワクチン 生後2カ月～5歳に至るまで（5歳の誕生日前日まで） 【初回接種】生後2カ月～7か月未満までに開始。生後24カ月（標準：12カ月）までに27日以上の間隔をおいて3回 【追加接種】初回終了後60日以上かつ、生後12カ月以降に1回																								
	五種混合 DT 不活化ワクチン 生後2カ月～生後90カ月に至るまで 【初回接種】生後2～7か月までに開始。20日以上（標準：20日～56日まで）の間隔をおいて3回 【追加接種】初回終了後6カ月以上（標準：1年～1年6カ月）の間隔をおいて1回 【D T】11歳～13歳未満（13歳誕生日前日）までの間に1回																								
	※五種混合：ジフテリア・百日咳破傷風・ポリオ・ヒブ ※DT：ジフテリア・破傷風																								
	BCG 注射生ワクチン 生後5カ月～8カ月の間に1回																								
	MR 注射生ワクチン 【1期】生後1歳～2歳誕生日の前日までに1回 ★MR1期は1歳になったら早めに受けましょう 【2期】小学校就学の前年度（6歳となる日の属する年度内）に1回																								
任意	水ぼうそう 注射生ワクチン 1歳～3歳未満の間に2回 【1回目】1歳～1歳3カ月の間に1回 【2回目】1回目から3カ月以上（標準：6カ月～12カ月）の間隔をおいて2回目を接種																								
	日本脳炎 不活化ワクチン 【1期初回】3歳の間に2回（6日以上間隔をおく） 【1期追加】4歳の間に1回 【2期】9歳の間に1回 ※H7年4月2日～H19年4月1日生の方→20歳未満の間で、1期・2期の未接種分を定期接種として接種できます 【初回接種】6日以上（標準：6日～28日まで）の間隔をおいて2回 【追加接種】初回（2回）終了後6カ月以上（標準：おおむね1年）おいて1回																								
	ヒトパピローマウイルス 不活化ワクチン 小学6年～高校1年に相当する学年の女子（標準的には中学1年） 【シルガード9（9価）】（1回目を15歳以前に接種）6カ月の間隔をおいて2回接種（計2回） （1回目を15歳以降に接種）2カ月の間隔をおいて2回接種した後、1回目から6カ月の間隔をおいて1回（計3回）																								
	おたふくかぜ 注射生ワクチン 1歳の時に1回接種。任意接種ですが、うるま市では1歳のお子さんを対象に公費で1回接種できます。																								

対象月齢（年齢）以外での接種は、**公費対象となりません**のでご注意ください

予防接種を受けましょう

感染症は、ウイルスや細菌などの病原体が体内に入り、増加することによって引き起こされます。お母さんが赤ちゃんにプレゼントした、病気に対する抵抗力（免疫）は、百日咳では生後3ヶ月までに、麻疹では生後12ヶ月までにほとんど自然に失われていきます。そのため、この時期を過ぎると、赤ちゃん自身で免疫を作って病気を予防する必要があります。その助けとなるのが予防接種です。

子どもは発育と共に外出の機会が多くなり、感染症にかかる可能性も高くなります。ワクチンを接種することで、抵抗力を作り、感染症の発症や重症化を防ぐことができます。接種した本人だけでなく、重い病気をお持ちの方や妊婦など、予防接種を受けることができない人への感染も防ぐことができます。

異なるワクチンの接種間隔

- 注射生ワクチン同士を接種する場合を除き、接種間隔の制限はありません。
- B型肝炎、ロタウイルス、ヒブ、小児用肺炎球菌、四種混合、水ぼうそう、日本脳炎、ヒトパピローマウイルスなど、同一ワクチンを複数回接種する必要があるものについては、各ワクチンで決められた接種間隔に従ってください。

注射生ワクチン

27日以上

注射生ワクチン